

陳 述 書

2007年1月21日

原告 尾崎由美



1. はじめに

私は、1970年から昨年3月まで、横浜駅近くにあります神奈川県社会福祉協議会に勤務しました。主に社会福祉関係図書資料の収集整備・貸出し業務を担当しました。

2. 住んでいるところ、下北沢とのかかわり

私は1993年8月に世田谷区大原1丁目7番地に大田区から転居しました。下北沢駅から10分ほどの所で、東大原小学校のすぐそばです。静かで、幼稚園児の通園路になっています。近くには一番街本通りがあり、野菜や日用品の買い物、写真現像や時計修理、画廊での鑑賞などのため頻繁に利用していますが、段々、この商店街の人通りが少なくなっていることを聞き、今後を案じています。

下北沢駅の北口や南口にも買い物に行きます。細い道が多く車が入らないので安心して歩くことができ、緑の多い住宅街を通りぬけて、活気があり賑わっている商店街に行くのを楽しみにしています。

3. 補助54号線ができる困ること

1) 下北沢駅に行くのが不便・危険となる

私が最もよく通るのは、下北沢駅に向かう道、鎌倉通りです。毎日のようにこの道路を歩いていますが、補助54号線は下北沢駅手前で、この鎌倉通りを横切ります。そのため工事後は、駅への行き帰りに必ず、幅15メートルもの大きな道路を横断しなければならないことになり、緊張や注意が格段に必要と

なります。不便・危険となります。下北沢に必要な道路であれば不便さ・危険も我慢できますが、既に井の頭通りや環7などの大きな道路が整備されているこの地域に全く必要の無い道路のために我慢はできません（写真資料1）。

2) 下北沢が楽しい街でなくなってしまう

私は昨年3月まで横浜まで毎日通勤していたため、下北沢のお店をゆっくり見てまわる楽しみをまだ少ししか味わっていませんが、細い道に沿って、絵葉書屋や蕎麦屋、喫茶店、花屋、洋服店、古書店、古い家具の店等々、興味深いお店が並んでいる通りが沢山あり、劇場や映画館もあり、本当にここは文化がある街であることを有難く思いつつ歩いています。

折角いつも賑わっている下北沢の街になぜ、不必要な大きな道路を通して店が営業を続けることができなくさせ街を壊してしまうのか、全く理解できません。54号線のための用地買収が始まり、楽しんでいたお店や趣のある住まいが壊され更地になっていく光景を思い浮かべますと、辛い気持ちでいっぱいとなります（写真資料2）。

54号線ができると道沿いに高層ビルが建つようになってしましますが、高層ビルができると、歩行者への風雨は激しく当たるようになり、散歩も楽しくなくなります。高齢となっていく私にはとても心配です。

3) 一番街本通りが寂れる

54号線は下北沢駅と一番街本通りの間を通るので、駅を下車した人にとって一番街本通りに向かうのは、信号待ちなどで億劫となり、現在より行く人が激減することが予想されます。そうすると営業をやめる店が多くなり、日常の買い物を一番街に頼っている私はとても困ります。

4) 理不尽な世田谷区政

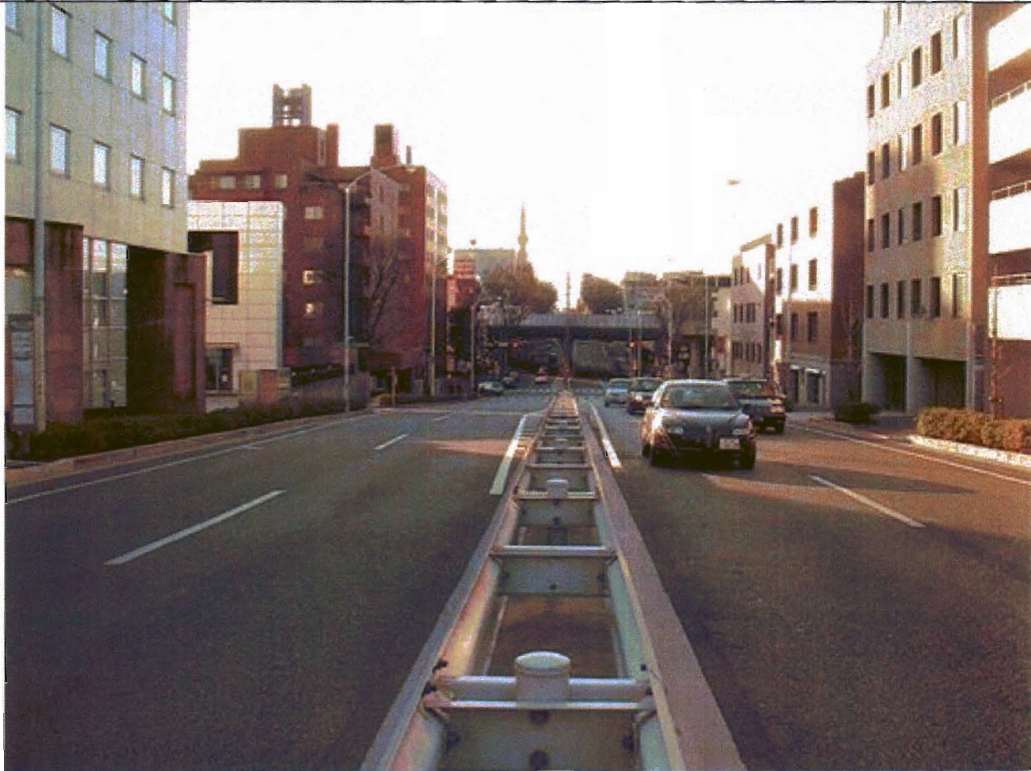
私は昨年12月7日に世田谷区道路整備部が開催した「都市計画事業の概要および用地と補償説明会」に出席しました。

同部の説明内容は工事手順や用地取得手順についてだけで、出席者から重ね

て「補助54号線をなぜつくらなければならないのか」という質問があったにもかかわらず、居並ぶ担当者たちは答えずに説明会を終了してしまい、私は大変驚きました。道路予定地住民・商業者、下北沢に来るのを楽しみにしている多大な人々に影響を及ぼす大事業を多大な税金を使って行うというのに、説明しないで済ませ強行しよう、区民の理解を得なくても結構、決定事項なのだから進めます、という道路整備部職員、区政に、恐ろしさを感じました。

本来、現状を良くしていくことが行政の役割ですが、区の事業による環境悪化への区民からの心配、危惧の声を解く努力をしないで無視する方針の世田谷区政を問題にしないことは、区民としての責任を果たさないことになります。

以上



1. 四車線に拡幅された井の頭通り。
渋滞することなく環六と環七をつないでいる。



2. 自動車がほとんど入ってこないため
ゆっくりと安心して歩くことのできる路地（北口）